

V 標準化会議の事業計画

1. 概要

標準化会議は会員ニーズに基づいた規格づくりを進めている。

国内標準化活動ではJIS、JASO及びJSMA規格の新規及び改正原案作業に取り組む。国際標準化活動ではISO/TC227ばねの規格開発を継続実施する。具体的には、日本提案のISO/CD19690-1「皿ばね 第1部：計算式」のDIS段階への移行、ISO/CD19690-2「皿ばね 第2部：技術仕様」のCD原案作成作業を推進する。10月にウィーンで開催される第12回ISO/TC227ばね国際会議に参加し、ISO規格化に向けての原案審議を行う予定である。

2. 活動の詳細

2.1 国内規格関係

2.1.1 JIS規格関係

平成28年度は、B2704「コイルばね」及びB2709「ねじりコイルばね」を統合し、改正規格としてB2704-1「コイルばね 第1部：コイルばねの基本計算方法」及びB2704-2「コイルばね 第2部：コイルばねの仕様の表し方」の2規格の原案作成活動を進める。実施期間は平成28年4月から平成29年2月までとする。

この活動は政府制度の原案作成委員会運営費の補助を受けて行う。

2.1.2 JASO規格関係

自動車技術会規格委員会要素部会の活動に例年どおり参加する。

なお、本年度はばねに関連した分科会活動は無い。

2.1.3 JSMA規格関係

標準化会議の4部会が共に年間1から2規格の改正原案作成作業を行う。

昨年度JIS B0156「ばね記号」が制定されたので記号の見直しを含めての作業になる。さらにISO規格提案に向けた「ばねの試験法」の技術報告書の作成作業なども継続して進める。

2.2 ISO規格関係

2.2.1 ISO/TC227ばね関連の国際標準化活動

(1) 第12回ISO/TC227国際会議

10月20日及び21日にオーストリアのウィーンで開催予定の国際会議に参加し、以下の議案審議をする予定。何れも日本がコンビナーを務めている。

1)「皿ばね 第1部：計算式」のDIS案の審議。

2)「皿ばね 第2部：技術仕様」のCD案の審議。

2.2.2 政府制度の活用

以下の政府制度を活用し、ばねの国際標準化活動の推進を図る。

(1) 国際幹事国際会議派遣事業

2.2.1 (1) 項対応。